逍遥散・加味逍遥散及び類似処方の臨床応用

高橋楊子・上海中医薬大学附属日本校

逍遥散 『太平惠民和剂局方』卷九治妇女诸疾

【組成】柴胡・当帰・白芍・白朮・茯苓（各1両）・甘草（5銭）・生姜（1塊）・薄荷（少々）

【効能】疏肝解鬱・健脾養血・調経。

【方解】柴胡・薄荷—疏肝解鬱

当帰・芍薬—養血柔肝

白朮・茯苓—健脾祛湿

生姜・甘草—和中調和

☛肝の機能→肝は疏泄・蔵血を主る

肝の特徴→体陰用陽、相火を蔵する。

「女子は肝を以て先天と為す（葉天士）」→肝と婦人疾患の関係は密接！

「肝の病を見て、肝、脾に伝うるを知り、当に先ず脾を実すべし（金匱要略）」→肝と脾胃の関係はとくに密接！

【主治】

1. 肝鬱血虚による憂鬱不安・イライラ・両脇脹痛・寒熱往来・頭痛目眩・口燥咽乾・神疲食少・月経不順・乳房脹痛、脈弦而虚など
2. 肝鬱脾虚による憂鬱不安・イライラ・腹脹腹痛・下痢便秘交互に出る・神疲食少、脈弦而虚など

☛逍遥散証のポイント→肝鬱+血虚+脾虚による婦人疾患・胃腸障害・精神的な不安など

【臨床応用】

1. 生理不順・月経前緊張症候群（PMS）・生理痛・不妊症・更年期障害症候群など
2. 乳腺症・乳腺線維腺腫・慢性乳腺炎・乳がんなど
3. 不安緊張症・神経性胃炎・神経衰弱・心身症・ストレス性の頭痛・肩こりなど
4. 過敏性腸症候群・潰瘍性大腸炎など
5. 慢性肝炎・肝硬変など

【逍遥】とは、『逍遥遊（荘子）』から出典する。「北冥に魚あり、その名を鯤（こん）と曰う。鯤の大いさ、その幾千里なるかを知らず。化して鳥と為る、その名を鵬（ほう、おおとり）と曰う。鵬の背、幾千里なるかを知らず。怒って飛べば、其の翼は垂天の雲のごとし。是れ、海を運（うご）きて南冥に徙（うつ）らんと欲す」。 荘子の哲学思想においては、おおとりが何ものにも束縛されずに自然と一体となり大空に自由自在に飛んでいる姿を「逍遥の境地」であり、人間の理想的な生き方と推尊する。

処方ストレスや情緒の抑圧による気滞の状態を解消し、気持ちをのびやかにさせ、スト

レスや自律神経失調による精神的な不安や婦人疾患、及び胃腸障害を改善することができるので、「逍遙散」と名付けた。

加味逍遙散（丹梔逍遙散） 『内科摘要』

【組成】 逍遙散＋牡丹皮・山梔子

【効能】 疏肝瀉火・和血調経・健脾

【方解】 逍遙散—疏肝解鬱・健脾養血

牡丹皮—清肝瀉火・涼血散血

山梔子—清心除煩・清瀉三焦・

【主治】 肝鬱化火・血虚有熱によるイライラ・易怒・頭痛・肩こり・目赤・潮熱・フットフラッシュ・更年期障害・月経不順・過多月経・月経痛・不正出血・寝付きが悪い・不眠・多夢・腹脹腹痛・便秘と下痢が交互にでる、舌紅・弦数脈など

【臨床応用】 肝鬱化火＋逍遙散の諸症状。

黒逍遙散 『医略六書・女科摘要』

【組成】 逍遙散＋熟地黄

【効能】 疏肝解鬱・健脾養血・滋陰

【方解】 逍遙散—疏肝解鬱・健脾養血

熟地黄—滋陰補血

【主治】 肝鬱＋陰血虧損による諸症状

【臨床応用】 逍遙散諸症状＋陰血虧損

四逆散 『傷寒論』

【組成】 柴胡・芍薬・枳実・甘草（各 10 分）

【効用】 透邪解鬱・疏肝理脾

【方解】 柴胡—透邪昇陽・疏肝解鬱

芍薬—養血柔肝

枳実—行気導滯

甘草—益気健脾

【主治】

1. 邪入少陰・陽気鬱滞により陽気が四肢到達できず四肢冷えになる（少陰病の四逆）。
2. 肝脾不和による不安憂鬱・脘腹脹痛・両脇脹痛・ガスが多い・便秘気味、或いは便秘と下痢、交互に出る・四肢冷え、弦脈など

【臨床応用】

1. 肋間神経痛など
2. 慢性胆嚢炎・慢性膵炎など

- 3. 疝気など
- 4. 神経性胃腸炎など

柴胡疏肝散 『景岳全書』

【組成】 陳皮 6g・柴胡 6g・川芎 4.5g・香附子 4.5g・枳殼 4.5g・芍薬 4.5g・甘草 1.5g
 (四逆散去枳実+枳殼・陳皮・川芎・香附子)

【効能】 疏肝行気・和血止痛

【方解】 四逆散—透邪解鬱・疏肝理脾
 陳皮・香附子—理気舒肝
 川芎—理気活血

【主治】 肝鬱気滞による両脇脹痛・腕腹脹痛・月経脹痛・或いは寒熱往来、脈弦有力。
 「脇肋疼痛・寒熱往来 (景岳全書)」

👉柴胡疏肝散証のポイント→肝鬱気滞による各臓器・部位の激しい脹痛など。

【臨床応用】

- 1. 急性・慢性肝炎による脇痛など
- 2. 神経性胃炎・神経性胃腸炎による腕腹脹痛など
- 3. 過敏性腸症候群・潰瘍性大腸炎などなど
- 4. 月経前緊張症候群・月経痛など
- 5. 肋骨神経痛など

★【5つ処方の相違点】

この5つの処方 は和剤に属し、疏肝理気・調和気血・調和肝脾・調和腸胃などの作用があり、ストレスの多い現代社会ではよく使われるものである

方剂	基本処方	加減	共通	適応症
逍遥散	四逆散 柴胡芍薬 枳実甘草	去枳実+薄荷・当帰・芍薬・白朮・茯苓・生姜	肝鬱 気滞 肝脾 不和	肝鬱+血虚+脾虚による婦人疾患・胃腸障害・精神不安
加味逍遥散		逍遥散+牡丹皮・山梔子		肝鬱化火+逍遥散の諸症状。
黒逍遥散		逍遥散+熟地黄		逍遥散の諸症状+陰血虧損
四逆散		同左		気滞陽鬱・肝脾不和 (実証)
柴胡疏肝散		四逆散(枳実→枳殼) +香附子・陳皮・川芎		肝鬱気滞の各種激しい疼痛 (実証)

【症例検討】続発性無月経

患者：女性、30代、会社員、未婚

初診：某年3月

主訴：無月経

望診：中肉中背・顔色白い

問診：昔から月経不順（30～60日）、経血色はこげ茶色が多く血塊があり、軽い月経痛。

1年前、仕事のストレスにより月経が突然止まった。めまい、立ちくらみ、慢性肩こり、便秘気味、便はやや硬い、顔に吹き出物がやすい、冷えなし。基礎体温は無排卵の一相性。

舌診：暗紅舌、舌尖舌辺に瘀点が多い、薄苔やや黄

脈診：細弦脈、尺弱

弁証：

治則：

お薦めの処方：